



# 会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所

日本臨床衛生検査技師会

発行責任者 小崎繁昭

編集責任者 高田欽也・金子健史・高永博夫  
水井正樹・大高正壽

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号

TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722

ホームページ <http://www.jamt.or.jp>



9月9日(日)に文京シビックホールにおいて“全国輸血研修会”が開催された。この日は「救急の日」でもあり“公開講演会”として開催され、全国から日臨技会員の臨床検査技師をはじめ、医師、看護師、薬剤師、その他医療関係者や一般人約1,000名が参加する催しとなった。この全国輸血研修会は、平成17年度に厚生労働省より発出された「血液製剤の適正使用に係わる臨床検査技師の育成強化について(依頼)」(平成17年6月9日薬食血発第0609002号)を受け、日臨技が3ヶ年計画で進めた事業の集大成ともいえる。

平成17年度の厚生労働省からの依頼によると「・・・輸血部門に専任の責任医師を置いている医療機関は少なく、各医療機関における血液製剤の適正使用推進には実態として輸血医療に関して専門知識を有する臨床検査技師の積極的な関わり及びこれを支援する院内の理解と協力体制によるところが大きいと認識している。

しかし、輸血療法は直接人命に関わるものであり、より一層の専門的知識が要求される領域でもある・・・としている。当時の厚生労働省医薬食品局血液対策課としては、「実際に各都道府県を回り、はじめてその実態がわかった・・・」とコメントしている。

この依頼の具体的事項としては、「①臨床検査技師の卒前教育の一環として、輸血療法の講義及び実習(特に血液製剤の安全性の確保及び適正使用に関すること)を充実させること②貴会でやっている生涯教育研修制度などを活用して、輸血療法の全般的・統合的な知識及び技能(特に血液製剤の安全性の確保及び適正使用に関すること)を取得させるための体制整備を図ること」としている。日臨技では、もともと検査部門を中心とした輸血検査研修会を開催、更に各都道府県でも同様な研修会を行っている実績を持つが、この厚生労働省の依頼を受け、輸血検査技術の更なる向上に向けて「3ヶ年計画」として研修会の実施に踏み切った。

具体的には、厚生労働省の依頼内容を組み込んだ実技

研修を平成19年までの3ヶ年において47都道府県全県において実施するというものであった。事業開始として、平成17年度にも今回と同様な全国研修会を821名の受講で開催した。

この3ヶ年の研修では今年度はまだ数県の実施を残してはいるが、その見込み数を含めると3,135名が修了することとなり全会員の約6.4%となる。日臨技会員は約49,000名であるため数値の上からは決して満足出来る結果ではないと言わざるを得ない。

しかし、前述のように各都道府県においても同様の研修を実施しており、“都道府県自主開催の研修会”としては、平成17年度の開催都道府県は36県、受講者は6,239名、平成18年度は同様に、29県3,386名を数えている。更に、平成19年度は数千名の受講数が見込まれる。したがって、何らかのかたちで全国において“輸血検査技術”の研鑽を重ねている臨床検査技師の数としては3年間で約18,000名にのぼり、会員数の約38%にあたることとなる。一方、認定輸血検査技師制度は開始当初より日臨技が深く関与しているが、この認定を取得している臨床検査技師は1,300名にすぎない。厚生労働省によると、輸血専門医を配置している医療機関は少なく、今後はますます“輸血業務はその管理も含めた輸血業務一元化”として臨床検査技師の手に託される可能性が大である。

関連記事 2ページ・・・

- P01 3ヶ年計画“平成19年度 全国輸血研修会”終了!
- P02 同研修会<都道府県・職種別>受講状況
- P03 裁判員制度-1
- P04 治療重点医療からの脱却-1
- P05 治療重点医療からの脱却-2
- P06 ひとくち英会話・地区短信・Oh! 脳
- P07 投稿:臨技の行う採血と法律問題(補遺)
- P08 インドにおけるIFBLS学会案内・地球温暖化を考える

- P09 結核菌奨励賞募集・8地区 joint日臨技 forum
- P10 資料:品質管理はじめの一步<最終回>-1
- P11 資料:品質管理はじめの一步<最終回>-2
- P12 気になるキーワード:社内公募制度・裁判制度-2
- P13 投稿:自己と非自己・裁判制度-3
- P14 理事行動・編集室雑感
- P15 JAMT 共済ネット
- P16 臨床検査技師賠償責任保険